

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

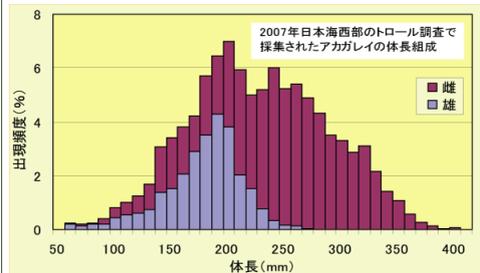
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
 成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、50%成熟体長は雌27cm、雄17cm
 産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
 索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~700m)
 食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
 捕食者: 不明

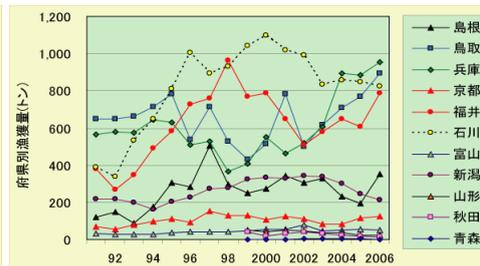


漁業の特徴

日本海のアカガレイの90%以上は沖合底びき網または小型底びき網で漁獲されている。残りは刺し網による漁獲である。底びき網漁業はアカガレイの季節的な移動に合わせて、分布域全体で行われる。

漁獲の動向

漁獲量の把握可能な1991年以降の石川県以西の漁獲量を見ると、1992年に約2,000トンと最低を記録した後、1995年までは増加し、その後は3,000トン台で安定していた。近年は卓越年級の加入により増加傾向にあり、2006年は過去15年間で最高の約3,900トンであった。富山県以北では、近年漸減傾向が認められ、2006年は308トンとなった。日本海全体では2006年は約4,200トンとなった。

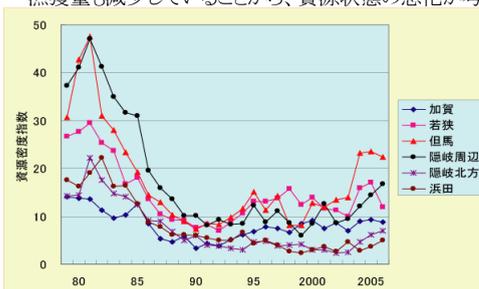


資源評価法

漁獲量、沖合底びき網の統計値(漁獲量・資源密度指数)の推移および日本海西部海域で行われている着底トロールの結果(面積密度法で計算した資源量の推移)から資源評価を行った。

資源状態

日本海西部海域における沖合底びき網の海域別資源密度指数(漁区別1網あたりの漁獲量の平均値)では、近年は各海域とも最低値の2倍以上の値を示しており、2006年は若狭沖を除き、資源密度指数は過去20年間で上位に入る数値を示した。しかし、すべての海域で1980年代前半の水準までは達していない。2007年着底トロール調査結果を見ると、雌の親魚量及びこれから産卵親魚となる雌の量は前年より増加していた。また、成育場における幼魚の着底状況も良好であった。北部では沖底資源密度指数が過去最低となり、漁獲量も減少していることから、資源状態の悪化が考えられた。



管理方策

産卵親魚、新規加入群を含めた卓越年級群以外の水準と動向はともに安定していることや、卓越年級のいない加賀沖でも資源状態の悪化は見られないことから、西部海域では、過度の漁獲を避け、漁獲圧を現状以下に留めれば、急激な資源状態の悪化はないと考える。しかし、卓越年級群の雌の多くは成熟するまでにさらに数年を要するため、雌の未成魚を保護することが必要である。現状の漁獲圧をかけると漁獲量は増加する可能性も考えられるが、雌の未成魚の保護を目的としABClimitを現状の漁獲量とした。北部海域では、資源状態の悪化が考えられるため、漁獲圧を減らすことが必要であるため、現状の漁獲量の8割をABClimitとした。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit 西部	3,900トン	西C2006	—	—
ABClimit 北部	250トン	0.8北C2006	—	—
ABCtarget 西部	3,500トン	0.9西C2006	—	—
ABCtarget 北部	200トン	0.8・0.8北C2006	—	—

資源評価のまとめ

- 卓越年級群の漁獲は始まったが、雌の多くは未成魚である
- 西部海域の資源は増加傾向にあるが、北部海域では資源状態の悪化が懸念されるため、海域別にABCを算出した
- 漁獲圧は北部、西部とも高い状態ではない
- 西部海域の親魚量、加入量も悪い状態ではない

管理方策のまとめ

- 西部海域では卓越年級群を中心とした雌の未成魚の保護が重要
- 西部海域では漁獲圧を現状以下に留める
- 北部海域では漁獲圧を下げる
- 加賀・若狭海域の禁漁区が成果をあげていると考えられることから、本種の生物特性にあった資源管理・保護を行うことは重要

資源評価は毎年更新されます。